

Column 7 教室文化の醸成

学校や学級を、どの子どもにも安心できる場、自己存在感や充実感・自己有用感が感じられる場にすることはとても重要です。「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって授業を行う教員が、一人ひとりの多様な学びを認め、子どもが互いの学びを理解し、尊重し合うことは、子どもの居場所づくり・絆づくりにつながります。

各教科において、多様な他者と協働し、課題を解決していく「主体的・対話的で深い学び」の積み重ねにより、子どもの資質・能力が育成され、教室文化^{*}が醸成されていきます。リーフレットの「よりよい学級と社会を創る教室文化の診断」を活用し、教室文化が醸成されているか振り返ってみましょう。

※「教室文化」とは…子どもが学級において共有している行動様式

■他者と関わり合える環境（互いの学びを理解し、尊重し合う関係性）

| 環境 | 項目 | 説明 | いない | | いる | |
|----|-----------|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | | | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 環境 | 教室における安心感 | 1 間違いを言うてはいけないという雰囲気なくなり、安心して自分の意見を言えるようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | | 2 自分の意見を相手にわかってもらいたいと思い、発言するようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | | 3 相手がどんな意見をもっているのかに関心をもち、その意見を聞こうとするようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

子どもが、学校生活において、他者との関わり方を学んでいくことはとても重要です。互いの失敗や間違いを受け入れ、尊重し合えるような支持的風土のある環境づくりのために、授業を通して「1 安心して意見が言える環境」「2 相手にわかってもらいたいと思い、発言できる環境」「3 相手の意見に関心をもち、意見を聞こうとする環境」ができていないか確認してみましょう。

■学習自体に向かう姿勢（他者と協働し、深く学ぼうとする姿勢）

| 姿勢 | 項目 | 説明 | いない | | いる | |
|----|----------------|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | | | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 姿勢 | よりよい学級を創る学びの態度 | 4 資料から情報を単に読み取るだけでなく、それを解釈するようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | | 5 わからないことをそのままにせず、積極的に質問するようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | | 6 与えられた課題や問いに答えるだけでなく、新たな課題や問いを発見するようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | | 7 学んだことを日常生活や社会と関連付けて生かそうとするようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

子どもにとって一人の力では解決が難しく、他者と協働しなければならないような学習課題に対しては、子どもが、多様な資質・能力を発揮することが必要となります。授業を通して「4 情報を読み取るだけでなく、意味・内容を解きほぐし、明らかにしようとする姿勢」「5 積極的に質問しようとする姿勢」「6 新たな課題や問いを発見しようとする姿勢」「7 日常生活に生かそうとする姿勢」ができていないか確認してみましょう。

■学び合い支え合う学級集団（よりよい社会を様々な人々と共に創造できる集団）

| 学級集団 | 項目 | 説明 | いない | | いる | |
|------|------------|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | | | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 学級集団 | 学び合い支え合う仲間 | 学級の全員が、互いに互いのことを、よりよい学級や社会を創るための、学びを深める大事な仲間と思うようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

各学習集団における「主体的・対話的で深い学び」を通して「学級の一人ひとりを、学びを深める大事な仲間と思うようになっている集団」は、成熟した学級といえます。互いに学び合い支え合う学級集団ができていないか確認してみましょう。よりよい社会を様々な人々と共に創造できるように、互いの異なる考えを尊重する子どもに育てたいものです。

■「よりよい学級と社会を創る教室文化の診断」活用の工夫例

教員が自らの授業・対象の学習集団を振り返り、子どもが互いに学び合い支え合うことのできる学習集団になっているか「教室文化の診断」を活用し、新たな気づきの参考にしてください。

次に挙げるのは「教室文化の診断」をある高等学校で生徒に実施し（図1）、教員と生徒の意識の差を分析した例です。図2のような授業改善への意欲の高まりにつながりました。

| よりよい学習集団を創る教室文化の診断 | | 年 組 番 名 前 _____ | | | |
|---|---|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| あなたが学習している集団は、互いを尊重し合い、学びを深められる集団になっていますか。 | | | | | |
| 学び合う仲間や自分のことについて、次のチェック項目にレ点を入れながら振り返ってみよう。 | | | | | |
| | | | いない | いる | |
| | | | 0 | 1 | 2 |
| | | | 3 | | |
| 教室における 安心感 | 1 | 間違いを言ってはいけないという雰囲気なくなり、安心して自分の意見を言えるようになっていく。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | 2 | 自分の意見を相手にわかってもらいたいと思い、発言するようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | 3 | 相手がどんな意見をもっているのかに関心をもち、その意見を聞こうとするようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| よりよい学級を 創る学びの態度 | 4 | 資料から情報を単に読み取るだけでなく、それを解釈するようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | 5 | わからないことをそのままにせず、積極的に質問するようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | 6 | 与えられた課題や問いに答えるだけでなく、新たな課題や問いを発見するようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | 7 | 学んだことを日常生活や社会と関連付けて生かそうとするようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 学び合い 支え合う仲間 | | 学級の全員が、互いに互いのことを、よりよい学級や社会を創るための、学びを深める大事な仲間と思うようになっている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

図1 生徒に実施したアンケート（「学級」を「学習集団」に改変）

| | 良かったこと | 課題 |
|---------|--|--|
| A 教諭 | 「1 安心して意見が言える環境」「2 相手にわかってもらいたいと思い、発言できる環境」など他者と関わり合える環境が整っていると回答した生徒がほぼ全員であった。教室における生徒の発言に対する安心感や学びの環境は、概ね確立できていることが分かった。 | 「3 相手の意見に関心をもち、意見を聞こうとする環境」「学級の全員が、学びを深める大事な仲間と思うようになっている集団」の評価が低かった。「聞こうとする姿勢」「互いに尊重し、学び合える集団づくり」を目指す働き掛けが必要であることが分かった。 |
| B 教諭 | 自らの学習集団において「4 情報を読み取るだけでなく、意味・内容を解きほぐし、明らかにしようとする姿勢」「5 積極的に質問しようとする姿勢」など学習自体に向かう姿勢が良好であることが分かり、自信がもてた。 | 「6 新たな課題や問いを発見しようとする姿勢」の評価が低いことが分かり、課題発見につなげられるような発問の仕方・ワークシートの作成が課題であることが分かった。 |
| C 教諭 | 生徒の授業に対する評価（環境・姿勢）が高く、進め方や授業内容に関し、自信をもつことができた。 | 生徒自らの理解や、発言しようという思いに対し、不安を感じている生徒が少数でもいることが分かり、それらの生徒に配慮しながら授業設計していく必要性を実感した。 |

図2 実施した教員の意見

「主体的・対話的で深い学び」では、学習集団において、子どもが思いや考えを、安心してそのなりに率直に言える関係性をつくることが必要不可欠です。そこで、子どもが理解できないことや、自信がもてず不安になっている思いに気づき、支援していきましょう。気づきには、教員側の「観察する力」がとても重要です。

また、よりよい教室文化を醸成するには、学習集団に関わるすべての教職員の協力が必要です。「教室文化の診断」を定期的に活用し、子どもの思いを確認しながら、教員間の対話を通して、教科の枠を越えて授業改善を進めていきましょう。